

2026年6月30日  
SBSホールディングス株式会社  
株式会社 東芝  
Drive Electro Technology 株式会社

**SBSホールディングス、東芝、DET、物流分野における商用EVの普及拡大に向けた実証を開始  
「既存車両改造」×「中古電池活用」×「超急速充電」を組み合わせた統合モデルを検証**

SBSホールディングス株式会社、株式会社東芝（以下、東芝）および Drive Electro Technology 株式会社（以下、DET）の3社は、物流分野における商用EVのさらなる普及を目的として、「既存車両改造（レトロフィット）EVトラック」、「中古電池を活用した充電システム」、「超急速充電」を組み合わせた統合モデルの実現可能性を検証する実証実験を、2026年6月下旬より開始しました。

本実証実験は、車両、充電、電力供給の各要素を一体的に組み合わせて検証するもので、商用EVの導入に係るさまざまな課題解決を目指す取り組みです。具体的には、既存のディーゼルトラックを電動化改造したEVトラックと、中古電池を活用した定置型蓄電設備を組み合わせ、物流拠点内での超急速充電の運用を検証します。これらを一体的に検証する取り組みは、国内においても先進的な事例です。

カーボンニュートラル実現に向けて電動車両の普及が進む一方で、商用EVの本格導入に関しては、充電設備の設置に伴うスペース確保やコスト負担、将来的に発生する使用済み電池の有効活用などの課題があります。特に、都市部の物流事業においては、充電時間の長さによる車両稼働率の低下と、インフラ整備の際のスペース面での制約が導入拡大のボトルネックとなっています。

こうした課題に対して、今回の実証実験では、SBSグループが東京都内に所有する物流拠点において、DETが既存トラックを電動化改造したEVトラックと、急速充電が特長である、中古の東芝製のリチウムイオン二次電池 SCiB™ を搭載した定置型蓄電設備を組み合わせ、充電の運用を検証します。あわせて、1台の充電器により複数台の車両を効率的に充電できるかを検証し、充電スペースの小型化や車両稼働率の向上の可能性についても確認します。

3社は今後、本実証実験の結果を踏まえ、商用EVの普及に向けた統合モデルの実用化を目指し、取り組みを加速してまいります。



既存ディーゼルトラックを電動化改造した EV トラック

※社名・商品名・サービス名などは、それぞれ各社の商標または登録商標である場合があります。

以上